



Via Latina 22

2024年4月 330号

総本部よりのお知らせーマリア会

ケベック訪問	1
ペルーの新しい修練院	3
メリバ管区の新体制が発足	3
ヴィア・ラティーナでの任命	4
マリアニスト家族の保護の祝日 マリアニストの召命を祝う日 ...	5
総会への途上	5
マリー=テレーズ・ド・ラムルースと"ミゼリコルド"の娘たち ...	6
召命のための祈り	6

ケベック訪問

3月8日から14日まで、総長、André-Joseph Fétis師は、カナダ地域共同体のマリア会員たちを短期間訪問しました。

会員とこうして接することができてよかった、というのも、彼らの状況はここ数ヶ月で大きく変わったからです。セント・アンセルムの閉鎖と売却以来、カナダの7人の会員たちは6つの異なる場所に住んでいます。2人の会員はケベック市近郊のマリアニストのレジデンスに、もう1人はマリアニストの霊性センターに、残りの4人は健康のために必要なケアを受けられる別々のレジデンスに住んでおり、彼らのうちの2人は現地や近隣の地域で司牧活動を行っています。

このような状況において、最初の課題は、会員間の相互訪問や時折の会合、あるいはニュース交換や霊的一致を通じて、結びつきを維持することです。共同体のメンバーは地理的に分散していますが、精神的、友愛的な面では分散していません。



カナダ地域共同体のメンバー
(左より立って) Gérard Blais師、Florian Royer-Chabot師、
Eugène Côté師、Paul-Arthur Gilbert師、Raymond Boutin士
(座って) André-Joseph Fétis師、Jean-Marie Larochelle士
(不在) Jean-Charles Casista士

ケベックのもう一つの現実は、非常に熱心な信徒マリアニストの存在です。その中の一グループが、2000年に会員たちによって設立されたサン・アンリ霊性センターの責任者となり、献身的に、また巧みに運営しています。今年、近くに4つのMLCグループが誕生しました。これはカナダにおけるマリアニストの存在にとって大きな希望のしるしであり、また、カナダのマリアニストは1人のアリアンス・マリアルメンバーの存在を頼りにすることができます。



**André-Joseph Fétis師、信徒マリアニストグループの1つとともに
サン・アンリ霊性センターにて**

この訪問によって、Fétis師は各会員とそれぞれの生活状況を話し合う機会を得ました。また、合同の会議では、地域共同体やSMのニュースを交換する機会がありました。

カナダにおけるマリアニストの存在は小さいですが、意義深いものです。信徒マリアニストの役割はますます重要になってきています。会員たちの存在と活動は高く評価されています。これからも会員たちがその活動を惜しみなく提供し続けますように。

ペルーの新しい修練院

3月17日、エル・カヤオ（ペルー）のサンタ・マリア修練院が正式に開院し、新修練者による約束式が修練院で行われました。修練院はコレヒオ・サン・アントニオ共同体の旧居、グアルディア・チャラカ通り1865番地にあります。



(左より) Douglas Roper士、 José Vicente López師、 Luis Sánchez Suárez (修練者)、
Dominic Matata Mbuva(修練者)、 Carlos Julio Barragán師

サンタ・マリア修練院は、ラテンアメリカ・ゾーン（CLAMAR）とスペイン管区に從属しています。養成担当者チームはCarlos Julio Barragán師, SM（修練長）、Douglas Roper士, SM（副修練長）、およびJosé Vicente López師, SM（副養成担当者）で構成されています。Carlos JulioとDouglasは、ラテンアメリカ地区（それぞれコロンビア・エクアドル部門とペルー部門）に所属しています。José Vicenteはスペイン管区に属しています。

修練院はラテンアメリカ地区から2名の修練者を迎えて始まりました：ペルーでマリアニストに出会ったケニア出身のDominic Matata Mbuvaと、コロンビア出身のLuis Sánchez Suárezです。来月にはスペインからの1人の修練者も加わるかもしれません。

私たちはマリア会におけるこの新しい生命のしるしを喜び、修練者と養成担当者をマリアの保護と導きに委ねます。

メリバ管区の新体制が発足

最近、メリバ管区のメンバーは、別々の意見聴取の中で、次期管区長および副管区長に対する意見を求められました。現管区長のTimothy Driscoll士, SMと副管区長のThomas Cardone師, SMは5月末に2期目の任期を終えます。そのため、2月中旬に、意見聴取への回答と管区のニーズを考慮した結果、Joseph Bellizzi士, SMが管区長に任命されました（Via Latina 22 - 2024年3月号参照）。そしてごく最近、Peter Heiskell師, SMが副管区長に任命されました。



Peter師はニューヨーク州ミネオラのシャミナード高校卒業生です。そこで教育を受けた後、マリア会に入り、1988年に初誓願を立てました。それ以来、スペイン語と宗教の教師、ガイダンス・カウンセラー、いくつかのクラブや活動の顧問を務めてきました。師は、1991年に終生誓願を立て、長年にわたり、学校の管理運営とマリアニスト共同体の管理運営に携わってきました。

会員たちの呼びかけと同時に自分の召命の呼びかけに応え、Peter師は2016年に司祭養成のためにシャミナード国際神学校に入り、2019年に司祭に叙階されました。シャミナード高校に戻ると、同校のチャプレンに任命されました。また、過去数年間、管区の修練長も務めています。

私たちは、Peter師が寛大な奉仕の精神でこの新しい任命を引き受けてくださったことに感謝しています。またリーダーとしての長年の奉仕を完了するThomas Cardone師にも感謝します！私たちはお2人の上に、また管区の上にも神の祝福を祈ります。



ヴィア・ラティーナでの任命



今度の総会終了後、総書記および国際神学校副校長であったFrédéric Bini士がローマを去り、トーゴに戻ることにになります。この2つの重要な役割における長年の貢献に感謝いたします。Via Latinaでは、彼の専門知識と友愛に満ちた存在感から恩恵を受けてきました。またトーゴ地区は彼がローマで培った経験を活かしてくれることでしょう。Frédéric士の後任として、2人の会員が総本部に就任します。

スペイン管区出身で、すでにVia Latinaに在籍しているJosé Ignacio Iglesia士は、次期総書記に就任します。José Ignacio士は1989年に初誓願を立てました。スペインで美術史の教育を受け、デイトン大学のマリア研究所で博士号を取得しました。その後、ポーランドで24年間スペイン語と宗教を教えました。



コートジボワール地区出身のHervé Dagbo士がシャミナード国際神学校の次期副校長に就任します。Dagbo士は2004年に初誓願を立てました。数年間、数学と宗教を教え、コートジボワールのマリアニストの事業体で司牧を担当しました。2018年からは、アビジャンの修練長のアシスタントであると同時に、地区秘書とアバジン・ドゥーメにあるシャミナード村のアフリカ（フランス語圏）マリアニスト研究センターの所長も務めています。

私たちは、この3人の会員のこれまでの、そしてこれからの奉仕と、マリア会からの呼びかけに応える用意ができていることに感謝します。

マリアニスト家族の保護の祝日 マリアニストの召命を祝う日

3月25日は神のお告げの祝日であり、マリアの"はい"の祝日であり、マリアの胎内にみことばが受肉した祝日です。また、マリアニストの召命を祝う祝日でもあります。

今年、教会は（ご復活節の時期）の4月8日をこの祝日を祝う日として選びました。アリアンス・マリアルは、お告げの祈りを用いて私たちの主イエス・キリストがマリアの胎内に受肉されたことを記念することによって、マリアのYESを黙想するよう私たちに勧めています。私たちは、教会における私たちのマリアニストの召命を、私たちの創立者たちのことを、また私たちの母であるマリアへの奉獻を通して様々な生活身分において同じ霊性を生きるという私たちの召命に感謝したいと思います。マリアニスト家族世界評議会から送られたメッセージは[こちら](#)をクリックしてご覧ください。



総会への途上



XXXVI
GENERAL CHAPTER
SOCIETY OF MARY

7月5日から27日までローマで開催される第36回マリア会総会まで、あと3ヶ月余りとなりました。2023年1月に総長評議員会によって開始された準備過程は計画通りに進んでいます。

私たちは現在、このプロセスの第二段階に入っており、それは総会の作業のための"*Instrumentum laboris*"（討議要綱）の推敲に焦点を当てています。

2023年12月に、この討議要項の第一草稿が、代議員、全ユニットの評議員会、そしてマリアニスト家族の他の枝の代表者たちに送付され、他の人々や機関、特に若者たちと相談するよう奨励されました。2月末までに、総会への協力寄稿や提案が集められ、Timothy Driscoll士, SM、(メリバ管区)と Rogelio Núñez士, SM、(スペイン-ブラジル)によって構成される編集委員会 (RedCo) のメンバーに送られました。私たちは、4月中旬までに新しいバージョンの"*Instrumentum laboris*"（討議要綱）を完成させ、それを代議員に送付する予定です。さらに、この新バージョンはマリア会の全会員が入手できるようになる予定です。総長評議員会はすでにその報告書を代議員に送付しており、それらは間もなく全会員にも送付される予定です。

一方、準備委員会 (PrepCo) は、総会の予定表を作成しながら、トピックの配分の整理を続けています。準備委員会は、総会への提案書の提出期限が過ぎれば、予定表を確定する予定です。今までのところ、総会が検討し識別すべきトピックを示唆する4つの提案を受けています。第一次草稿にご協力くださった方々、また提案書をご提出くださった方々に感謝いたします。今後数ヶ月間、特に総会の会期中、より熱心に総会のために祈ってくださるようお願いいたします。

マリー=テレーズ・ド・ラムルースと"ミゼリコルド"の娘たち： 「それは相互の贈り物でした」



それは相互の贈り物でした。マリー=テレーズ・ド・ラムルースは、ミゼリコルドの女性たちと生活を共にするという招きに応えることに不安を感じていたが、ひとたび彼女たちと一緒にになると、その心地よさと快適さに驚きました。そして、ミゼリコルドの女性たちも、理解ある恵みに満ちた女性と共にいると感じました。マリー=テレーズは、ミゼリコルデの精神、すなわち慈悲、思いやり、そして受け容れを体現していました。マリー=テレーズとミゼリコルデの女性たちの中で分かち合われていたのは、相互の贈り物でした。彼女たちがミゼリコルドにやってきたのは、自分たちの人生には何も残っていなかったからです。

イギリスとの戦争で多くの夫や父親の命が奪われたため、多くの未亡人や娘たちは、路上でわずかな賃金を稼ぐ以外、生きていくすべがありませんでした。その上、革命は社会の道徳を低下させました。ミゼリコルドは、家や職業を学ぶ機会、そして何よりも自尊心を取り戻す場所を提供しました。ミゼリコルドは、彼女たちとマリー=テレーズの間で、恵みに満ちた現存と受容という相互の贈り物が共有される家でした。

それは相互の贈り物でした。マリー=テレーズがミゼリコルドの女性たちと一緒にいるときに、そのような豊かな恵みがマリー=テレーズを通して流れているのを目の当たりにしたシャミナード神父は、摂理への信頼を新たにしました。そしてマリー=テレーズは、シャミナード神父の支えによって、生涯の召命をミゼリコルドに見出したのです。これは、マリー=テレーズとシャミナード神父の間で分かち合われた、相互の恵みの賜物でした。

それは相互の賜物です。私たちが神から受ける恵みは、私たちが他者と分かち合う恵みです；つまり、これは「恵みに重なる恵み」、すなわち与えることを止められない神から来るかくも素晴らしい、豊かな賜物であり、この賜物は見返りとして他者と相互に分かち合う贈り物となるのです。

召命のための祈り



神の子、イエス、
神性に満たされたかたあなたは洗礼を受けたすべての人に「沖に漕ぎ出しなさい」と呼びかけ、
聖性へと導く道を歩むよう招かれます。

今日の世界であなたの愛の力のあかし人となる望みを、若者たちの心に目覚めさせてください。

自己とその召命について完全な真実を見いだすことができるように、勇気と賢明の霊で彼らを満たしてください。

父のあわれみ深い愛を示すために父から遣わされた、わたしたちの救い主よ、
沖に漕ぎ出し、兄弟たちの中で、
刷新と救いをもたらすあなたの現存のしるしとなる覚悟ができている若者を、
あなたの教会にたまものとしてお与えください。

聖なるおとめ、あがない主の母、神と隣人への道を確かに導いてくださるかた、
主のことばを心の深みで思いめぐらしておられたかた
若者たちが主の呼びかけに寛大にこたえるのを助けることができるように
わたしたちの家族と教会共同体を、母であるあなたの取り次ぎによって支えてください。
アーメン。

2004年8月11日

教皇ヨハネ・パウロ二世



信徒マリアニスト共同体の国際ニュースレター
2024年の3月号

PDF版をご覧になるため、あるいはダウンロードするため

[こちら](#)をクリックください。



「イエスの復活を信じることは、新しい人生の入り口にとどまることです。それは不可能が現実になる入り口にとどまることです。」

2024年の復活祭の日曜日に際し、ヴィア・ラティーナ22は、復活の主が世界中のすべての人々に平和をもたらしてくださるよう祈りつつ、読者の皆様に温かいご挨拶を申し上げます。

"レ・マイロフォア" (香水の担い手たち)

最近の総本部通信

- **死亡通知： N. 3-4**
- **3月6日：マリアニスト家族の保護の祝日のメッセージ：**マリアニスト家族世界評議会より3ヶ国語で、全マリア員に送付。
- **3月6日：会報『新しいぶどう酒』の第8号：**マリアニスト研究センター国際コーディネーター、José Ignacio Iglesia士、SMより、3ヶ国語でマリアニスト研究センター(CEMAS)の所長、ゾーン議長、ユニット上長、養成所長、WCMF会員に送付。
- **3月9日：総会連絡#5と総長評議員会の報告書：**準備委員会より、3ヶ国語で第36回総会の代議員に送付。

総本部日程

- **4月2日～10日：**総長André-Joseph Fétis師、SM、ヨーロッパのマリアニスト修道院長会議に出席、ボルドーのマドレーヌ共同体を訪問。
- **4月3日～15日：**教育局長、Maximin Magnan士、SM、ガーナを訪問。
- **4月23日～5月6日：**総長、André-Joseph Fétis師、SMと霊生局長、Pablo Rambaud師、新しいインド地区の創設の折にベトナムとインドを訪問。